

1 . 平成 17 年度事業報告書

事業の状況

1、写真に関する芸術・創作活動の奨励、人材の育成

写真に関する芸術・創作活動の奨励、人材の育成については本年度は以下のような事業を実施した。

(1) 技術研究会

A. 「写真家のためのデジタル技術研究」

「写真用紙から見たインクジェットプリンタ」を6月24日に富士写真フイルム(株)本社で行う、参加者30名。

「エプソン・インクジェットプリンターPX5500によるモノクロプリント出力概論」を9月21日にエプソン販売(株)会議室で行う、参加者40名。

「写真家向け デジタルフォトの簡単カラーマネージメント」を2月1日にサンシャインシティ文化会館7階で行う、参加者71名。

(2) 写真教育

A. 小学生を対象とした「写真学習プログラム」を4月～3月にかけて全国小学校の57校(施設含む)参加児童数1,954名で実施。富士フイルムイメージング(株)の協力で行った。

2、写真の歴史、表現に関する展覧会の開催

写真の歴史、表現に関する展覧会の開催については本年度は以下のような事業を実施した。

(1) 「2005JPS展」

一般公募1,550名、応募点数5,515枚、入賞入選者数181名402枚、会員テーマ「私のこの一枚・モノクローム」出品者数136名136枚、「ヤングアイ」参加校22校。総展示数341名 562枚、総入場者数8,265名。後援：文化庁

・東京展 5月21日(土)～30日(月) 東京都美術館、入場者数4,325名。

イベント・表彰式・講演会・祝賀会 5月21日(土)“1 DAY QUICK”撮影指導・講評：指導 田沼武能、細江英公、熊切圭介、松本徳彦、齋藤康一。参加者66名。

講演会 演題「スナップ写真は自由に撮れるか」講師 岩田一平(アサヒカメラ編集長)、北村行夫(虎ノ門総合法律事務所弁護士)、木村恵一(常務理事)。

・関西展 6月28日(火)～7月3日(日) 京都市美術館、入場者数2,296名。

イベント・表彰式・祝賀会 7月3日(日)“1 DAY QUICK”撮影指導・講評：指導 井上博道、田中祥介、水野克比古、参加者47名。

・名古屋展 7月12日(火)～18日(月) 愛知県美術館、入場者数1,082名。

イベント・トークショー 7月16日(土)“1 DAY QUICK”撮影指導・講評：指導 木村一成、五木田友宏。参加者82名。トークショー「写真の過去、現在、未来(多様化する写真表現)」パネラー・竹葉 丈(名古屋市美術館学芸員) 詫間 喬夫、山口典利、近藤貴夫、五木田友宏、三浦誠。

・札幌展 7月27日(水)～31日(日) 札幌市民ギャラリー、入場者数489名。

イベント・7月30日(土)“1 DAY QUICK”撮影指導・講評：指導 佐藤憲悦、林拳示郎、綿引幸造。参加者24名。

(2)「2005新入会員展 - 私の仕事」

7月12日(火)～18日(月) JCIIクラブ25 出展者53名、展示作品数106枚。

オープニングパーティー：7月11日(月)、参加者112名。

(3)「名取洋之助の世界」展

5月13日(金)～19日(木) 東京・富士フォトサロンで催す。入場者数約4,700名。

3、写真に関する著作権の啓蒙・普及活動

写真に関する著作権の啓蒙・普及活動については本年度は以下のような事業を実施した。

(1) 研究会

A.「デジタル化の諸問題と写真著作権」を10月31日にJCII会議室で行う、参加者73名。講師：大亀哲郎(小学館)、早川義英(文藝春秋)、平井彰司(筑摩書房)、北村行夫(顧問弁護士)

B.「肖像権と表現の自由」を2月20日にJCII会議室で行う、参加者91名。講師：秋山哲也(読売新聞写真部)、土田ヒロミ(写真家)、北村行夫(顧問弁護士)、司会：松本徳彦(専務理事)

C.「フォトコンテストの応募要綱と著作権」について調査をした。

D.「保護期間の満了した写真著作権の復活」について他団体と協議した。

E.「デジタルカメラのExif情報と氏名表示」について調査をした。

(2) 著作権よろず相談を毎月第3水曜日に開催した。相談数23件。

4、写真に関する優れた技術開発、表現活動に対する顕彰

写真に関する優れた技術開発、表現活動に対する顕彰については本年度は以下のような事業を実施した。

(1)「第31回日本写真家協会賞」を「(株)島津興業・尚古集成館」に贈呈した。贈呈式を12月14日(水)にアルカディア市ヶ谷で行った。

(2)「2005JPS展」入賞・入選者181名を5月21日(土)東京都美術館で表彰した。

(3)第1回「名取洋之助写真賞」は名取賞に清水哲朗、奨励賞に伊原美代子を選び、受賞式を12月14日(水)にアルカディア市ヶ谷で行った。

(4)第1回「名取洋之助写真賞受賞作品展」を東京、大阪富士フォトサロンで行なった。

東京：1月20日(金)～26日(木) 入場者5,700名。

大阪：2月24日(金)～3月2日(木) 入場者3,850名。

5、写真に関する図書、機関誌等の編集刊行

写真に関する図書、機関誌等の編集刊行については本年度は以下のような事業を実施した。

(1)『日本写真家協会会報』を発行。年3回(No.129～131)

(2)『JPSニュース』を発行。年11回(No.419～429、総会資料・報告)

(3)『2005 JPS展作品集』を発行。

(4)『会員名簿2006～2007』を発行。

(5)『日本の子ども60年』を編集、新潮社発行。

6、写真に関する国際交流

写真に関する国際交流については本年度は以下のような事業を実施した。

(1) 国際交流研究会

- A. 「いま、韓国の写真界で何が起きているか」を9月12日にJCII会議室で行う、参加者46名。講師：金 寧万（韓国・写真家）
- B. 「動物の肖像～ドイツ・EU写真事情」を11月20日にJCII会議室で行う、参加者48名。講師：アレクサンダー・フォン・ライスヴィッツ（写真家）、マティアス・ニイホフ（ベルリン市文化奨励機関代表）
- C. レクチャー&交流会「アイリッシュナイト」を3月5日にザ・ダブリーナーズアイリッシュパブで行う。参加者35名。協力/アイルランド政府観光庁・浅野公宏（マネージャー）

7、その他目的を達成するために必要な事業

その他目的を達成するために必要な事業については本年度は以下のような事業を実施した。

(1) 「日本写真保存センター」の設立に向けての運動を展開。

小冊子『日本写真保存センター』2号を製作した。設立発起人会を3月14日、赤坂プリンスホテルで開催し、名称を「日本写真保存センター設立推進連盟」とし、代表に森山眞弓氏を選び委員を選んだ。

(2) ホームページ、インターネットを利用したサービス業務。（情報サービス委員会）

(3) ネガカバー、ファイルなど写真整理用品の製作及び販売。

8、法人設立5周年記念写真展「日本の子ども60年 - 21,900日のドラマ」

展示数148名、204枚、総入場者数55,018名。後援：文化庁。

- ・東京展 12月17日(土)～1月9日(日)18日間 東京都写真美術館B1展示室
(東京都写真美術館と共催、東京都芸術文化発信事業助成) 入場者13,733名
講演会 12月27日東京都写真美術館 1階ホール
講師 重松清「時代と子ども」、田沼武能「半世紀に亘る子どもの肖像」
開期中にサイン会、キッズフォトレクチャーを6回開く。
- ・名古屋展 1月17日(火)～29日(日)12日間 ノリタケの森ギャラリー 入場者14,939名
講演会 1月17日(火) 講師・田沼武能。開期中にキッズフォトレクチャーを開く。
- ・京都展 2月7日(火)～12日(日)6日間 京都、京都市美術館・別館 入場者9,170名
講演会 2月7日(火) 講師・田沼武能。開期中にキッズフォトレクチャーを開く。
- ・横浜展 2月16日(木)～3月19日(日)28日間 日本新聞博物館
(読売新聞社、日本新聞博物館と共催) 入場者17,176名
講演会 2月17日(金) 講師・重松清。2月24日(金) 講師・田沼武能。
3月3日(金) 講師・管洋志。3月10日(金) 講師・松本徳彦。
3月17日(金) 講師・熊切圭介。開期中にキッズフォトレクチャーを開く。
- ・写真集『日本の子ども60年』を新潮社より出版。[厚生労働省社会保障審議会推薦児童福祉文化財]の図書となる。